

平成 20 年度第 2 回普及に移す農業技術・技術情報（技術項目及び要約のみ）

番号	技術項目 要 約	担当場・部
1	<p>りんご2年生わい性台木苗木（カッツリー）輸送用バッグの実用性</p> <p>[要約] 試作したりんご2年生わい性台木苗木（カッツリー）輸送用バッグは、苗木を10～20本単位で収納でき、輸送中の苗の傷みが少ない。また、春先の日影条件では、バッグ内の湿度を1週間程度ほぼ100%に保つことができる。</p>	果樹試栽培部
2	<p>ぶどう「シャインマスカット」の無核化技術</p> <p>[要約] ぶどう「シャインマスカット」の無核栽培では、ストレプトマイシンを散布し、開花始期に花穂整形を行い、満開時～満開3日後および満開10～15日後にジベレリン25ppm液で花房・果房を浸漬処理する。若木や施設栽培では、着粒安定のため第1回目ジベレリン処理時にフルメット2～5ppmを加用する。</p>	果樹試育種部・栽培部
3	<p>ぶどう「シャインマスカット」（無核栽培）は短梢せん定栽培においても生産に必要な花穂が確保できる。</p> <p>[要約] ぶどう「シャインマスカット」（無核栽培）を短梢せん定で栽培した場合、定芽を用いることにより良品生産可能な花穂を1新梢当たり1個以上確保できる。</p>	果樹試栽培部・育種部
4	<p>ぶどう「シャインマスカット」（無核栽培）の収穫時期の目安</p> <p>[要約] ぶどう「シャインマスカット」（無核栽培）は、露地栽培では満開後80日前後となり果皮色が「ロザリオビアンコ」カラーチャート指数5を越えた頃を、加温栽培では満開後積算温度2,300℃以上となり果皮色が「ロザリオビアンコ」カラーチャート指数4程度となった頃を目安にすることにより、糖度18%程度の果実が収穫できる。</p>	果樹試育種部・栽培部
5	<p>ぶどう「オリエンタルスター」（無核栽培）の品種特性</p> <p>[要約] ぶどう「オリエンタルスター」の無核栽培では、果粒重12g程度と大粒で、肉質が良く、高糖度で食味の良い果実が生産できる。</p>	果樹試育種部
6	<p>ももの凍害防止のための各種防寒資材の効果</p> <p>[要約] ワラ巻きは温度変動を抑制する効果が高く、防寒、昇温防止効果ともに優れる。ワラの厚さは5cm以上で十分に密着させて被覆するのがよい。また、白塗剤、透湿性防水シート（タイベック）は、日中の昇温防止効果はあるが防寒効果がないので、温度低下の著しい地帯では凍害防止効果が低い。</p>	果樹試栽培部
7	<p>ネクタリン「サマークリスタル」の貯蔵方法の違いによる果実品質保持期間</p> <p>[要約] ネクタリン「サマークリスタル」は25℃貯蔵では2日で完熟レベルへ達する。また0℃、5℃貯蔵での果実品質保持期間はそれぞれ14日、10日程度と推測される。</p>	果樹試育種部
8	<p>夏秋どり業務用レタスにおける適品種と株間拡張による大玉生産</p> <p>[要約] 夏秋どりレタスで業務用適性の高い品種は、エンパイヤ系やサリナス系、サリナス・エンパイヤ系、エンパイヤ・マック系の品種群に多い。また、慣行栽培より株間を広げることで大玉生産ができる。</p>	野花試野菜部・佐久支場

番号	技術項目 要 約	担当場・部
9	<p>カラーピーマンの定植時期を分散させると7月～10月の収穫量を平準化できる</p> <p>[要約] 4月から6月の定植では、定植時期が早いほど収量が多い。定植時期を4月上旬と5月上旬に分散させると7月～10月における単位面積あたりの収穫周期が平準化し、時期別に起こる収穫量のムラを軽減することができる。</p>	野花試野菜部
10	<p>収穫時期および保存方法の違いによるアスパラガスの品質</p> <p>[要約] アスパラガスのルチン含量およびアスコルビン酸含量は春どりが最も高く、Brix 値や新鮮重当たりの水分含量は収穫時期による影響が少ない。若茎の硬さ（切断応力）は夏秋どりの温度下降期が最も大きく、保存により大きくなる。</p>	野花試野菜部
11	<p>豆類の連作ほ場における活性炭を利用したアレロパシーの軽減技術</p> <p>[要約] エダマメをはじめとする豆類はアレロパシー作用が強い作物の一つであるが、豆類の連作ほ場において、活性炭を処理することによりアレロパシーが軽減される。</p>	野花試野菜部・病害虫土壌肥料部
12	<p>LED「レピガード®」の照明がキクの生育・開花に及ぼす影響</p> <p>[要約] LED「レピガード®」は、照度が高いとキクの開花を抑制するが、夏秋ギクでは2～4Lux程度の低い照度では開花期や品質への影響が小さい。また、照明の均一性が高くパルス駆動によって照度を変えることが可能である。</p>	野花試花き部・病害虫土壌肥料部、南信試栽培部・病害虫土壌肥料部
13	<p>新規導入花木品目の栽培特性</p> <p>[要約] 新規性のある34種の花木について特性調査を行った結果、定植後2～3年で早期出荷が可能な品目としてアメリカテマリシモツケ「ルテウス」と「ディアボロ」、およびスモークツリー「ロイヤルパープル」が有望である。</p>	野花試花き部
14	<p>アルストロメリアに対する補光及び地中加温の効果</p> <p>[要約] アルストロメリア栽培において、10月から3月の高圧ナトリウム灯による補光と低温期の地中加温を組み合わせることで切り花収量が向上する。</p>	南信試栽培部
15	<p>ブナシメジ子実体を食害するキノコバエの生活史と対策</p> <p>[要約] [担当]</p> <p>[要約] 長野県北部で見つかったブナシメジ子実体を食害するキノコバエは、<i>Mycetophila penicillata</i> Sasakawa 2005（和名なし）によく似た別種で、ブナシメジ生育室での雌の発育期間は42日、春先および晩秋に施設内に侵入し生育室内で増殖する。防除は防虫ネットによる侵入防止と捕虫器等による捕殺を行う。</p>	野花試菌茸部
16	<p>黒毛和種の若齢肥育における飼料給与方法と産肉成績の関係</p> <p>[要約] 黒毛和種の若齢肥育において、23.5ヵ月齢以降にビタミンAを日本飼養標準の100%量投与することで、採食量が有意に多くなり枝肉重量の増加が期待できる。一方、給与飼料の高エネルギー化については、粗飼料価指数等を考慮しないと増体や肉質への改善効果はない。</p>	畜試肉用牛部
17	<p>細断型ロールペーラを利用して再密封したとうもろこしサイレージの品質は劣化しない</p> <p>[要約] 固定サイロから取り出したとうもろこしサイレージを細断型ロールペーラを用いて再密封してもサイレージ品質を保持できる。</p>	畜試肉用牛部

番号	技術項目 要 約	担当場・部
18	<p>カフェイン添加による豚液状保存精液の活力回復効果</p> <p>[要約] 豚液状保存精液を 3 日以上保存した場合は授精前にカフェインを添加し 37℃で加温することにより精子活力を短時間で回復することが可能である。</p>	畜試養豚養鶏部
19	<p>フィールドサーバは画像を含むほ場情報をリアルタイムで取得できる</p> <p>[要約] フィールドサーバは、気温、湿度、日射量、土壌水分、ほ場画像等の各種ほ場情報をリアルタイムに収集することができる。収集データは一般的なウェブブラウザで閲覧することが可能である。</p>	農総試経営情報部
20	<p>産業用無人ヘリコプター防除作業時の防薬ネット敷設によるドリフト低減</p> <p>[要約] 産業用無人ヘリコプター(RCヘリ)防除作業時に、高さ 2m、目合い 1mm の防薬ネットを敷設すると、隣接作物へのドリフトを低減できる。</p>	農総試機械施設部
21	<p>キノコ廃培地(コソコブ)堆肥のリン酸分を利用した水稻栽培</p> <p>[要約] リン酸含有率の高いキノコ廃培地(コソコブ)堆肥を 500～750kg/10a (リン酸にして 6.6～9.9kg/10a 相当)をリン酸肥料の代わりに施用して水稻を栽培しても慣行と同等の収量が得られる。</p>	農事試病害虫土壌肥料部
22	<p>全量基肥施肥法により栽植密度と施肥量を変えて水稻を栽培した時の生育と収量</p> <p>[要約] 全量基肥施肥法で栽植密度を減らして水稻を栽培すると長稈化し、茎の分けつ様相も標準植えと異なる。面積あたりの穂数は減少するが、1穂あたりの粒数が増える傾向がある。また疎植栽培において基肥を 15～20%程度減肥しても収量はほぼ同等であった。</p>	農事試病害虫土壌肥料部
23	<p>りんご2年生わい性台木苗木(カッツリー)育苗における窒素施肥反応と推奨窒素施肥量</p> <p>[要約] りんご2年生わい性台木苗木(カッツリー)育苗において、窒素施肥により生育は促進され、フェザー数は窒素 10kg-N/10a で最も多かった。しかし、窒素無施肥でも十分な生育量となり、育成目標を満たすカッツリーが得られた。</p>	果樹試病害虫土壌肥料部
24	<p>りんご2年生わい性台木苗木(カッツリー)における樹体内のデンプン及び糖濃度の経時的変化</p> <p>[要約] りんご2年生わい性台木苗木(カッツリー)における樹体内デンプン及び糖濃度は、部位により異なり、時期により大きく変化する。デンプン濃度は、10月以降急激に上昇し11月に最も高くなる。12月に入ると減少に転じ、中でもデンプン濃度が高い根での減少が著しい。糖濃度は全ての部位で10月以降上昇を続け、2月に最大となり、3月には大幅に低下する。</p>	果樹試病害虫土壌肥料部・栽培部
25	<p>有機質肥料が日本なし「南水」の収量・品質・窒素吸収(δ15N値)に及ぼす影響</p> <p>[要約] 有機質肥料を日本なし「南水」に連用した結果、化学区と比較して4年間の収量・糖度に差異はみられなかったが、δ15N値は連用3年目で果実、葉中での増加がみられ、δ15N値を用いた有機質肥料の施肥判別の可能性があると考えられた。</p>	南信試病害虫土壌肥料部・栽培部

番号	技術項目 要約	担当場・部
26	<p>かき園における土壌膨軟化処理を併用した局所施肥による減肥処理の影響</p> <p>[要約] 干し柿「市田柿」の原料果実を生産するかき園において、年間施肥量が多い場合、圧縮空気により土壌膨軟化処理を行った後、30～50%減肥して主幹の周囲に環状に表面局所施肥すると、土壌下部への硝酸態窒素の移行が減る。果実の収量・外観品質および樹体生育は慣行栽培とほぼ同等であるが、果実硬度が高まり、軟化発生が穏やかとなった。</p>	南信試病害虫土壌肥料部・栽培部
27	<p>灰色低地土アスパラガス畑におけるきのこ廃培地及び廃培地堆肥と稲わらの4年間の分解特性比較</p> <p>[要約] エリンギ及びエノキタケ廃培地または堆肥の重量、炭素、窒素の分解は、培地組成の違いより腐熟程度の影響が大きく、とくに12月に施用後、翌年6月までの分解は、稲わらに比べ、未熟な廃培地ほど早い。</p>	野花試病害虫土壌肥料部・野菜部・菌茸部
28	<p>灰色低地土野菜畑での可給態リン酸残存量と根菜類等の生育・収量</p> <p>[要約] 施肥前の土壌可給態リン酸が50～100mg/100g乾土程度残存する灰色低地土畑では、根菜類等（ジャガイモ、ダイコン、タマネギ）は、リン酸無施肥でも1～2作は、生育や品質、収量に影響を受けない。</p>	野花試病害虫土壌肥料部
29	<p>ユーフォルビア・フルゲンスの養分吸収特性</p> <p>[要約] ユーフォルビア・フルゲンスの栽培農家で、植物体の養分吸収量を調べ、成分ごとの株あたり吸収量と吸収パターンを明らかにした。</p>	野花試病害虫土壌肥料部・花き部
30	<p>ヒペリカム白化症状の発生原因</p> <p>[要約] ヒペリカムの白化症状は尿素中に副成分として含まれる「ビウレット」が原因である。ビウレット性窒素の施用量が5g/a以上となる場合は白化症状が発生する可能性がある。</p>	南信試栽培部・病害虫土壌肥料部
31	<p>水稻種子の浸種・催芽中でのイネばか苗病の2次伝染程度</p> <p>[要約] 健全籾を汚染籾と同一容器内で浸種・催芽すると、催芽方式や催芽時間により程度は異なるが、汚染籾から健全籾へ高率にばか苗病の伝染がおこる。</p>	農事試病害虫土壌肥料部
32	<p>イネいもち病（葉いもち）感染に及ぼす強雨の影響</p> <p>[要約] 「発生予察支援装置」、「クロープナビ」による葉いもち感染条件の判定で、感染源が確保されている圃場においては、強雨により感染好適条件を免れた場合でも感染している可能性がある。</p>	農事試病害虫土壌肥料部
33	<p>降雨がなくともイネいもち病（穂いもち）は発生する</p> <p>[要約] 感染源が確保されている場合、降雨がなくとも穂いもちが発生する可能性がある。</p>	農事試病害虫土壌肥料部
34	<p>ピーマン（カラーピーマンを含む）に発生する土壌病害の診断法</p> <p>[要約] 現在長野県内で発生しているピーマン（カラーピーマンを含む）の各種土壌病害は、考案したフローチャートに従うことで診断することができる。フローチャートで使用する密閉容器内の簡易組織培養法は、病害診断する際の補助となる。</p>	野花試病害虫土壌肥料部
35	<p>下伊那地域のキュウリから分離したキュウリ褐斑病菌の薬剤感受性</p> <p>[要約] 下伊那地域のキュウリから分離したキュウリ褐斑病菌は、ベンズイミダゾール系剤、ジエトフェンカルブ及びボスカリドに対して感受性が低下している可能性が高い。このため、耕種的防除を徹底した上で、効果のある薬剤のローテーション散布を行う。</p>	南信試病害虫土壌肥料部

番号	技術項目 要約	担当場・部
36	ビーティング法によるりんご園のカブリダニ類及びリンゴハダニ発生状況の把握 [要約] 新梢に寄生するダニ類を黒色板上に叩き落とすビーティング法により、りんご園に発生するカブリダニ類及びリンゴハダニの発生状況が把握できる。	果樹試病害虫土壤肥料部
37	りんご園の土着ミヤコカブリダニに与える農薬の影響 [要約] カーバメート剤と殺ダニ剤の一部はりんご園の土着ミヤコカブリダニに対して影響が大きい。また、有機リン剤とネオニコチノイド剤の一部は影響があり、合成ピレスロイド剤と IGR 剤及び一部を除く殺菌剤は影響が少ない。	果樹試病害虫土壤肥料部
38	ナシマダラメイガの性フェロモントラップ [要約] SEトラップの粘着版中央部に、開発したナシマダラメイガの発生予察用性誘引剤を設置すると、ナシマダラメイガのオス成虫を1ヶ月以上にわたって、効率的に誘引捕獲する。この捕獲数を、年間を通じて、半月毎に調査することにより、誘殺消長を簡単に把握することができる。	南信試病害虫土壤肥料部
39	SSRマーカーを用いた県職務育成りんご品種の識別 [要約] 県職務育成5品種を含むりんご26品種について、3種類のSSRマーカーを用いることにより供試26品種すべてを識別できる。	農総合試バイオテクノロジー部、果樹試育種部
40	SSRマーカーを用いた県職務育成もも・ネクタリン品種の識別 [要約] 県職務育成4品種を含むもも・ネクタリン43品種について、3種類のSSRマーカーを用いることにより県職務育成品種を含む特定の28品種を識別できる。	農総合試バイオテクノロジー部、果樹試育種部

※普及に移す農業技術のうち技術情報は、試験や調査で得た新たな知見で、生産技術に直接影響しないものの、情報として参考になる事項です。

毎年、10月と2月に普及技術検討会で審査され、公表されます。技術情報の詳細については、お近くの農業改良普及センターへお問い合わせください。

農業改良普及センター一覧

普及センター名	所在地	電話番号
佐久農業改良普及センター	佐久市大字跡部 65-1 佐久合同庁舎内	0267-63-3146
上小農業改良普及センター	上田市材木町 1-2-6 上田合同庁舎内	0268-25-7157
諏訪農業改良普及センター	諏訪市川上 1-1644-10 諏訪合同庁舎内	0266-57-2932
上伊那農業改良普及センター	伊那市大字伊那 3497 伊那合同庁舎内	0265-76-6842
下伊那農業改良普及センター	飯田市追手町 2-678 飯田合同庁舎内	0265-53-0436
木曾農業改良普及センター	木曾郡木曾町福島 2757-1 木曾合同庁舎内	0264-25-2230
松本農業改良普及センター	松本市大字島立 1020 松本合同庁舎内	0263-40-1947
北安曇農業改良普及センター	大町市大字大町 1058-2 大町合同庁舎内	0261-23-6543
長野農業改良普及センター	長野市大字南長野南県町 686-1 長野合同庁舎内	026-234-9534
北信農業改良普及センター	中野市大字壁田 955 北信合同庁舎内	0269-23-0221